

「K Gビジネスプランコンテスト2018」指定テーマ

◆指定テーマ② 「人工衛星のデータを活用したビジネスプラン」

人工衛星データは以下の情報を入手することができます。

代表的な人工衛星データに、[Google Earth](https://www.google.com/earth/)等の静止画や、気象衛星ひまわりの画像などがあります。

・周期的な観測

地球を周回しているため、同じ地域を定期的に観測することができます。よって、時間の経過に伴う環境の変化を知ることができます。

・広域観測

数十キロ～数千キロに及ぶ広い範囲を一度に見渡すことができるので、各地域における土地利用の状況、緑の分布の違い等を一度に見ることができます。

・アクセス性

自然災害が起きた地域の被害状況や、会場や山奥等普段私たちがアクセスできない地域の環境変化を知ることができます。

・目に見えない情報を取得

人間の目で見ることができない温度・水分量・大気中の塵などの情報も観測することができます。

たとえば、ABC放送「所&林修のポツンと一軒家」の様な使い方で、限界集落の問題を身近なビジネスに関連付けたり、過疎地を秘境になぞらえて観光ビジネスとして活用することも考えられます。

また準天頂衛星みちびきのデータを活用して、測位（地上の地点の緯度・経度・高さ情報）を基にしたスマホゲーム（例えばポケモンGO）などのビジネスも考えられます。

◆指定テーマ③ 「宇宙ゴミ（スペースデブリ）対策におけるビジネスプラン」

スペースデブリは、超高速で飛翔し、わずか数cmのものでも宇宙機に衝突すれば壊滅的な被害を出すことから、宇宙開発の大きな問題となっています。（現在は10cm以上のものだけで17,000個を超えて存在していることがわかっています。）宇宙ゴミ対策を国家ではなく、個人や民間が自発的に費用を支出して事業が回っていくビジネスを募集します。

たとえば、宇宙空間でキャッチしたデブリを地球の大気圏に再突入させるときに生ずる

光を活かして人工の流れ星を演出するビジネスとか、燃え尽きずに地上に落下させる場合、その落下地点を予想する「スペース宝くじ」。また落下物を回収して「希少金属」として再利用するとか、「スターダスト」としてお土産グッズにして販売する、等のビジネスが考えられます。

◆指定テーマ④ 「宇宙食を活用したビジネスプラン」

宇宙食として認められるには以下の条件があります。

- ・安全であること
容器や包装が燃えにくいこと。燃えた場合でも、人体に有害なガスが発生しないこと。
- ・長期保存が可能であること
常温で少なくとも1年半の賞味期限を有すること
- ・衛生性が高いこと
食中毒などを予防するための衛生性を確保（食品内の細菌の種類や数などを基準以下とすること）
- ・食べるときに危険要因が発生しないこと
電気系への障害防止（液体を含む食品は飛び散らないよう、食品を封入するパッケージに逆止弁付きストロー等を使用する）、空気清浄度への障害防止（微粉を出さないこと）

JAXAでは宇宙日本食認証基準を設け、どんな企業でも申請できる仕組みにしていますが、宇宙食のネックとして原価が高くなるので応募企業が少なく品数が少ないままとなっています。

そこで、たとえば、地域の美味しい食材を宇宙食に仕立て、災害食・防災食として地域の備蓄食料として活用したり、有名店の看板メニューを宇宙食にしてレトルト・缶詰・フリーズドライ食品としてネット販売することなどが考えられます。

応募して頂くビジネスプランとして、レシピや販売戦略に工夫を凝らしたアイデアなども歓迎します。

◆指定テーマ⑤ 「宇宙を楽しむビジネスプラン」

「宇宙旅行」や「宇宙ホテル」は、もはやSFや夢の世界ではなく、より現実的なものになってきています。また、ARやVR等の技術を駆使することで、実際に宇宙に行くことなく、宇宙を体験する事ができる世界も近づいてきています。

より身近になる「宇宙」を、多くの人を楽しむことができるようなビジネスプランを歓迎します。